

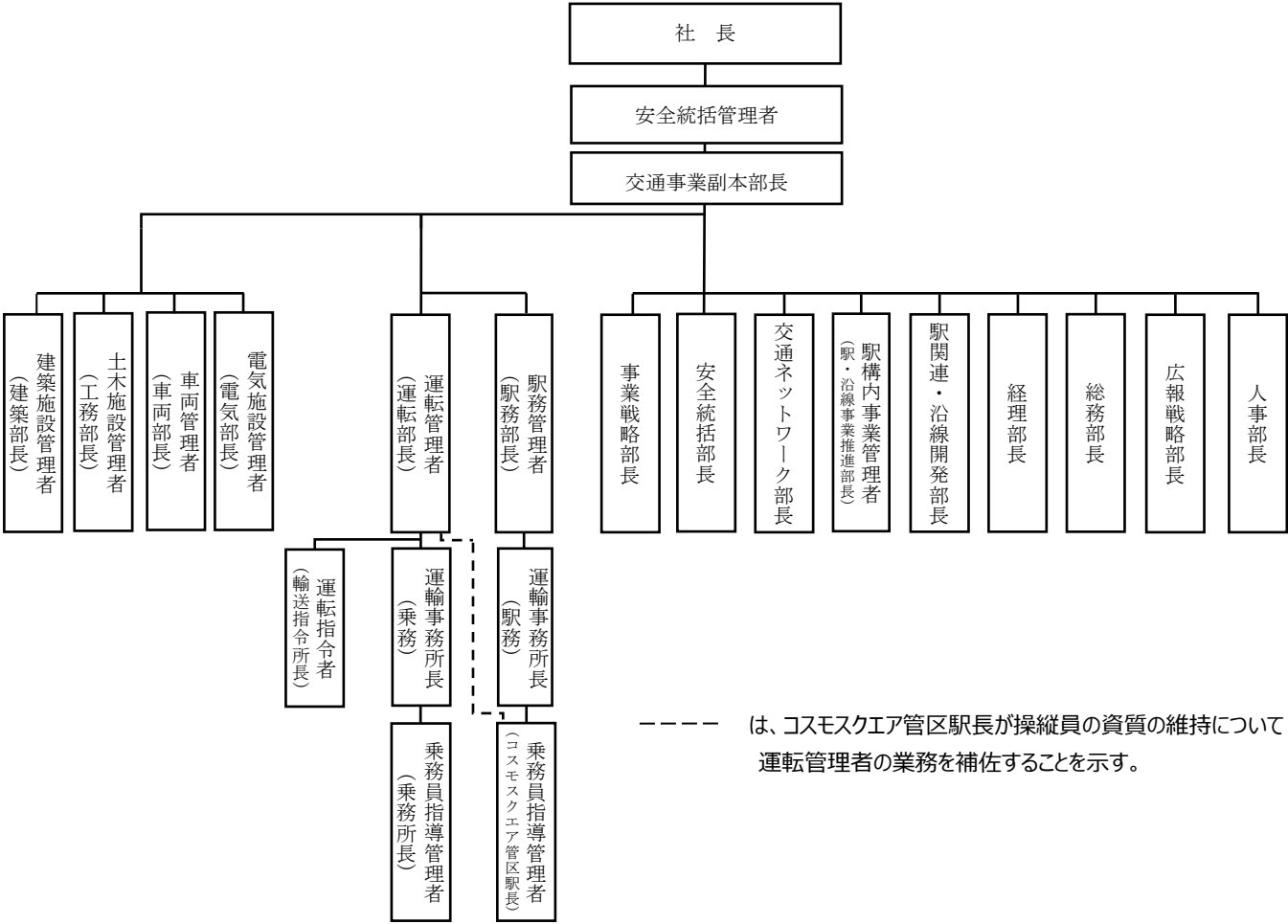
Osaka Metro の安全管理の方法

Osaka Metro では、安全管理体制のもと目標を定め、安全の強化に努めています。

安全管理体制

組織体制

輸送の安全を確保して事業を実施するため、「安全管理規程」を作成し、各管理者等の責務を明確にした体制を定めています。

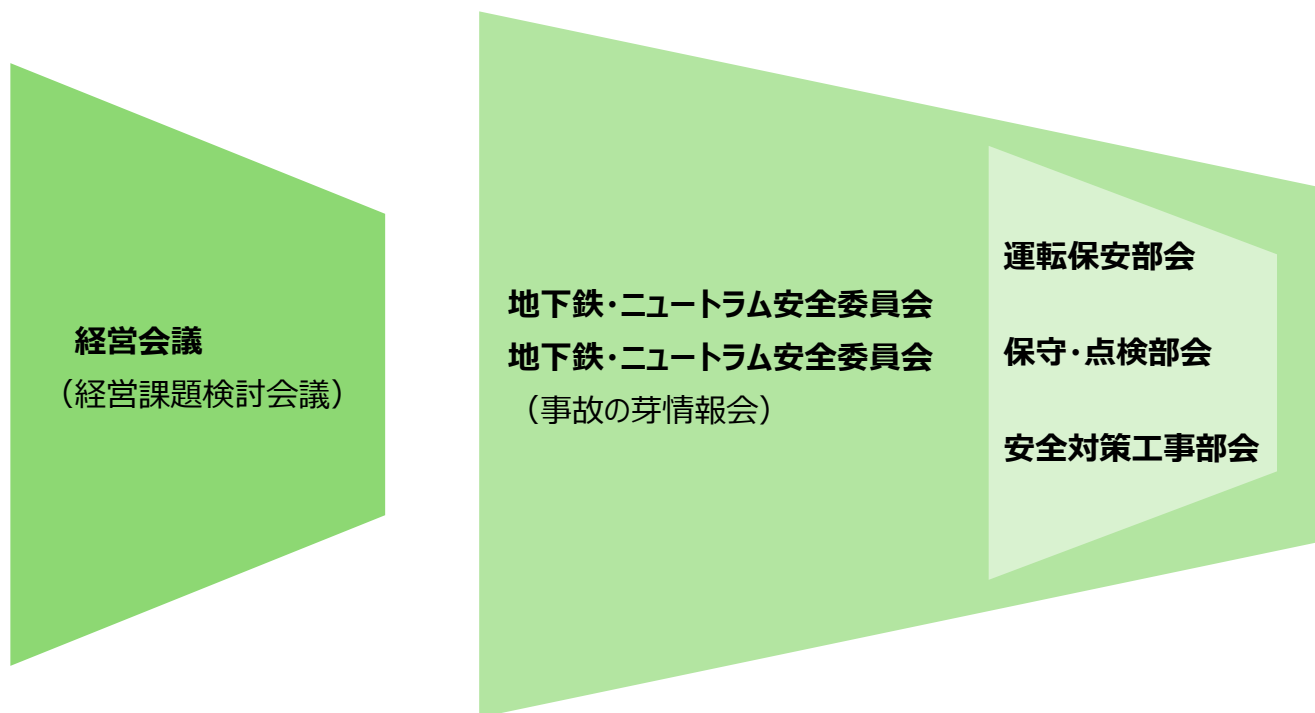


----- は、コスモスクエア管区駅長が操縦員の資質の維持について
運転管理者の業務を補佐することを示す。

社 長	輸送の安全の確保に関する最終的な責任を負う
安全統括管理者	輸送の安全を最優先とする輸送業務の実施及び各管理部門を統括管理する
運転管理者	運行計画の設定及び改定、列車運行の管理、乗務員の運用、育成及び資質の維持、その他運転に関する業務を統括管理する
乗務員指導管理者	乗務員の資質の維持管理及び運転管理者への報告を行う責務を有する
他の管理者等	各部門において、輸送の安全確保に支障を及ぼさないよう担当施設などを維持管理する

Osaka Metro の安全管理の方法

安全に関する会議の体制



地下鉄・ニュートラム安全委員会

地下鉄・ニュートラム安全委員会

安全で安定した輸送を提供するために欠くことのできない安全管理体制の構築と改善を図るため、安全統括管理者をはじめとする各管理者等によって構成する「地下鉄・ニュートラム安全委員会」を1年間に5回開催しています。

地下鉄・ニュートラム安全委員会（事故の芽情報会）

事故または事故の恐れがある事態、もしくは輸送の安全確保に影響を与える情報を早期に共有し、これらの情報を分析、整理して再発防止及び未然防止の検討を行うことを目的とした「事故の芽情報会」を毎月1回開催しています。

専門部会（運転保安部会、保守・点検部会、安全対策工事部会）

安全委員会にて更なる議論が必要と認めた事象について、背景要因の深掘り、原因の究明、再発防止対策を講じるための専門的な部会で「運転保安部会」「保守・点検部会」、「安全対策工事部会」があります。

Osaka Metro の安全管理の方法

2024 年度 経営トップコミットメント

昨年度、「安全意識の向上、マネジメント力の強化」を掲げて取り組みを行ってきた。今年度は、2025 年度の大阪・関西万博の開催を控え、万全の準備を行う必要があることから、「組織能力・対応力の強化、安全風土の醸成」を掲げる。「ヒューマンエラー・運行トラブルの発生件数ゼロ」を目指し、組織としても個人としても結果にこだわり、結果につながる取り組みを実施することにより「最高の安全・安心」を追求されたい。

各管理者、部長はこの方針に基づき、安全重点施策又は行動目標を策定し、安全統括管理者指揮の下、輸送の安全確保に取り組まれない。

1 大阪・関西万博会場へ直接アクセスする鉄道網としてお客さまの安全・安定輸送を恒常的に確保

- ① 最重点課題として、ヒューマンエラーや運行トラブル（労働災害を含む）の防止
 - ・決められたルールを目的を理解し、確実に遂行する取り組みを実施すること
 - ・継続的に行っている対策の有効性を検証し、都度改善に取り組むこと
- ② 本社部門による視座の高い活動や施策の実施
 - ・危機管理体制など、現場での活動をサポートするハード・ソフト両面の施策を実施し、経営力強化に努めること
 - ・指揮命令システムを今一度確認し、旧態依然の慣例に囚われることの無い、より効率的な体制を整備すること
- ③ 会場への輸送力を確保するとともに、迅速なトラブル対応体制の構築
 - ・お客さまへ分かりやすい経路案内を行うなど、快適な移動サービスの準備を行うこと
 - ・日常より有事を想定した実践的かつ有効性のある訓練を繰り返し行い、万一の事態に備えること
 - ・安全・安定輸送の確保に向けて、部門間での連携を強化する施策の準備を行うこと

2 目的意識を共有した風通しの良い職場づくり

- ① 安全風土の醸成のため、組織の目標達成に向けベクトルを合わせる施策の実施
 - ・目標を明確にしたうえで、新たな発想や気づき力を持って行動すること
 - ・施策やルールの本質を各自が心底から理解し、結果に繋げる行動とすること
- ② 上下関係に寄らず意見を出し合える組織風土の醸成
 - ・結果を責めずに事故の再発防止のための分析や改善に注力するために、互いを尊重し意見を出し合い議論すること

3 人材育成

- ① 個々人の更なるスキルアップにつながる教育
 - ・安全・安心を追求し、結果にこだわる意識の浸透を図る施策を実施すること
 - ・役割を理解し、信念を持ってやり遂げる姿勢を身に着ける施策を実施すること
- ② 実践を意識したシミュレーション訓練の実施
 - ・あらゆる状況を想定した対応訓練を実施し、有事において想定外のない対応力を備えること
- ③ 共通の目的意識を持ち協力し合える組織づくり
 - ・個々の能力を高めたうえで、互いに協力しあい、全社一丸で物事に立ち向かい課題解決に取り組むこと

4 安全投資

- ① 適切な経営判断を行うため、高い精度での執行管理と併せた、事業進捗管理の強化
 - ・各事業がどのような目的、役割を果たすかをお客さま目線で考え、目標を立てて取り組むこと
- ② 鉄道システムの高度化や、作業場所を含めた職場環境の改善を図るための計画的な投資
 - ・人とシステムが補完しながら調和し、最高のパフォーマンスを発揮し、事故トラブルが軽減される環境整備を進めること

Osaka Metro の安全管理の方法

安全重点施策・行動目標の策定

経営トップコミットメントに基づき、各管理者等が、前年度に実施した安全に関する取組みを振り返ることにより、新たな安全重点施策・行動目標・安全設備への支出計画を策定し、安全の確保に取り組んでいます。

なお、これらの施策等は地下鉄・ニュートラム安全委員会にて、その進捗状況を四半期毎に報告し、必要な見直し・改善を継続的に行うことにより、お客さまに安心してご利用いただける地下鉄・ニュートラムを目指しています。

管理者等が策定した 2024 年度安全重点施策や行動目標の取組み項目（抜粋）

※各部共通取組み

- ・業務の有効性・効率性を確認するための自主監査の実施（監査機能の強化）

駅務管理者

- ・2025 年大阪・関西万博開催期間中のお客さまの安全確保に向けた雑踏対策の整備
- ・始業時における確実な営業準備の実施

運転管理者

- ・2025 年大阪・関西万博開催に向けた安全・安定輸送の確保
- ・ヒューマンエラー・労働災害の防止

電気施設管理者

- ・2025 年大阪・関西万博開催期間時の輸送障害防止に対する取組み
- ・ヒューマンエラーによる運行トラブル及び労働災害の防止に対する取組み

車両管理者

- ・2025 年大阪・関西万博輸送での早期復旧体制の確立
- ・日々の作業に潜むリスクの収集

土木施設管理者

- ・2025 年大阪・関西万博開催中の安定輸送を確保する取組み
- ・組織能力、対応力強化の取組み

建築施設管理者

- ・2025 年大阪・関西万博期間中の安全・安定輸送のために組織体制の強化
- ・目的意識を共有した風通しの良い職場づくりと個々のスキルアップ

安全統括部長

- ・2025 年大阪・関西万博開催に向けた危機管理の対応力向上
- ・安全風土の醸成

駅務管理者	AI 案内サイネージの追加配置	土木施設管理者	地震等災害対策
運転管理者	ITV カメラ・モニタの新設	建築施設管理者	浸水対策工事
電気施設管理者	信号保安設備更新工事	交通ネットワーク部長	可動式ホーム柵
車両管理者	防犯カメラの導入		

Osaka Metro の安全管理の方法

運輸安全内部監査の実施

運輸安全内部監査は、安全管理体制が適切に機能していることを確認し、これにより Osaka Metro の輸送の安全が適切に確保できているかを客観的に評価することを目的に、経営トップである社長や安全統括管理者を始め、各部に対して実施しています。

各部門に対しては主として以下に掲げる事項の確認をしています。

- 1 関係法令及び安全管理文書に適合しているか
- 2 実施体制・手順等が確立され、PDCA サイクルが適切に機能しているか
- 3 安全管理体制上、どのような効果を出しているか

上記 1 ～ 3 の確認の結果、把握した不具合等については、監査対象部門と協力して改善に向けた取り組みを進めるとともに、把握した優良事例等については、社内に周知し、奨励しています。

2023 年度は以下の項目を重点監査事項と定めて実施し、さらなる改善に向けた取り組みを進めました。

社長及び安全統括管理者への監査

安全管理体制構築に係る取り組みの確認、次年度の方針の確認

- ・安全の取り組みについての評価と現状の課題について確認するとともに、2024 年度の安全の取り組みの方針について確認

各部への監査

安全文化醸成に向けた取り組み状況の確認

「最高の安全・安心」を追求するために、個人としての安全意識の向上と組織としてのマネジメント力の強化について確認

事故・トラブル防止の取り組みの有効性の確認

事故やヒューマンエラー、労働災害の原因の追求と再発防止に向けた取り組みの実効性について確認

自然災害、テロ等対応に係る取り組み状況の確認

頻発化、甚大化する自然災害やテロに対する平時の備えや体制、有事の実効性について確認、人材育成、技術継承に係る取り組み状況の確認

人材育成、技術継承に係る取り組み状況の確認

若手社員への人材育成、技術継承について、目指すべき姿を明確にした上で、計画を策定して取り組んでいるかについて確認

適切な安全投資の実施に向けた取り組み状況の確認

経年による安全上の影響を適切に反映した安全投資計画を策定し、計画的に実行しているかについて確認



経営トップへの運輸安全内部監査の実施



各部への運輸安全内部監査の実施

Osaka Metro の安全管理の方法

経営層と現場社員との対話・コミュニケーション

経営トップ、安全統括管理者をはじめとする経営層が、直接現場の社員とコミュニケーションを取ることで、共通した安全意識の向上に努めています。

社長現場巡視の実施

経営トップ自らが現場最前線への巡視を実施し、頑張る社員の声を聴き、激励しています。

2023 年度は、大阪・関西万博に向けた取組みを確実なものにするため、夢洲駅の工事現場に複数回訪問し、担当する社員と意見交換を行ったほか、「輸送の生命館」の改修状況を視察し、全社員が受講する安全研修の内容の確認を行いました。また、2023 年 7 月 18 日・19 日のニュートラムの輸送障害においては、原因となった変電所を訪問し、復旧に向けた作業状況を直接に把握するとともに、復旧作業を担う社員を激励しました。



夢洲駅 工事現場にて



輸送の生命館にて

経営トップによる情報発信

社内ポータルを通して、現場巡視時の様子や社員の声、経営者としての安全に対する考え方を、経営者情報発信として社員に届けています。2024 年度の経営トップコミットメント策定にあたっては、策定に込めた意図や思いを、経営者情報発信で、全社員に説明しています。

安全統括管理者等の現場巡視の実施

安全統括管理者をはじめとする現場第一線の活動を支える立場の経営層（部長級以上）が、各種運動期間や自主監査などの機会を捉え、現場巡視と意見交換会を実施しています。



安全統括管理者の現場巡視、意見交換

運輸安全マネジメント評価

2023 年 11 月、安全管理体制の構築、改善が適切に行われているかについて国土交通省による運輸安全マネジメント評価を受けました。

経営トップを始め、社員が一丸となって安全の確保に取り組んでいることなどを評価いただきました。

今後も安全文化の定着を図り、安全性を段階的に向上させるため、引き続き経営トップが主体的かつ積極的に関与することにより、さらなる安全管理体制の向上に、全社を挙げて取り組んでまいります。

